「岡山城天下取り物語」

令和4年11月17日

元岡山城築城400年関連事業推進協議会
ソフト事業委員会委員長
全国邪馬台国連絡協議会副会長・中四国支部長
百鬼園倶楽部会長
NPO法人公共の交通ラクダ会長
岡將男

王や大名は、街道や市の支配者

〝高原の道〟戦乱舞台に

「備前軍記」など改訂版出版記念講演

紹介する。（舟越俊司）

戦国岡山をたどる軸として「高原の道」を浮き上がらせた榎原教授

岡山の戦国時代像をイメージするのは難しい。時代を通して主役となる勢力が見いだしにくく、政治的な中心地もないからだ。そうした中で、宇喜多氏の前に備前国西部の覇者となった武士・松田氏に注目したい。

拠点となった金川城は、御津（岡山市北区）の山城だ。岡山平野や山陽道から離れた立地でなぜ覇権を確立できたのか。背景の一つに、松田氏は戦国期以前から室町幕府の奉公衆に任じられていたことがある。

奉公衆とは細川、赤松氏ら有力守護をけん制するため、将軍が地方武士を集めて編成した直属軍。岡山では松田氏のほか曽我氏（真庭・北房）、多治部氏（新見・大

刊行された「備前軍記」（右）と「備中兵乱記」の改訂版

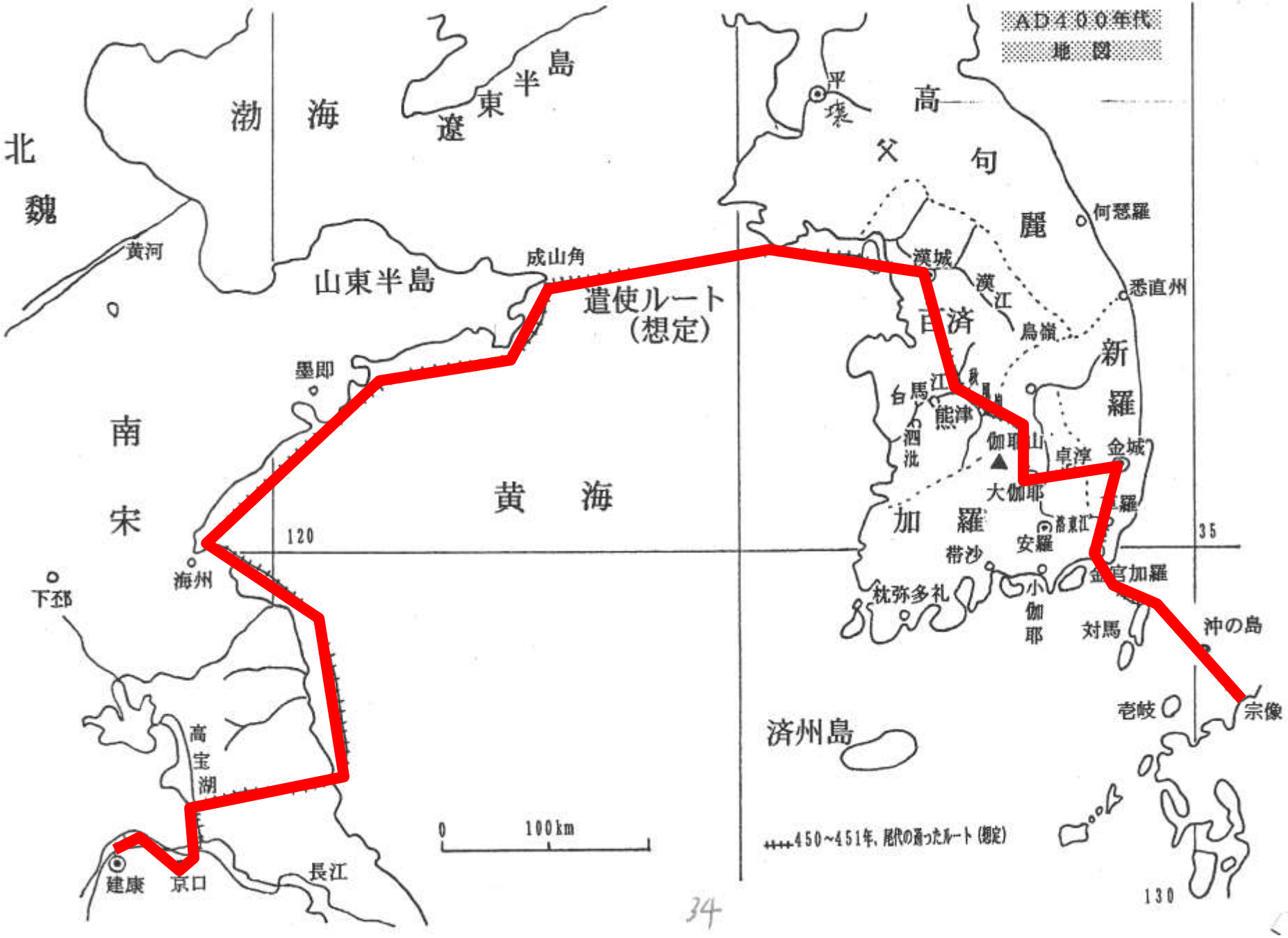
榎原東京大教授 新説を披露

山陽新聞2022-1117朝刊

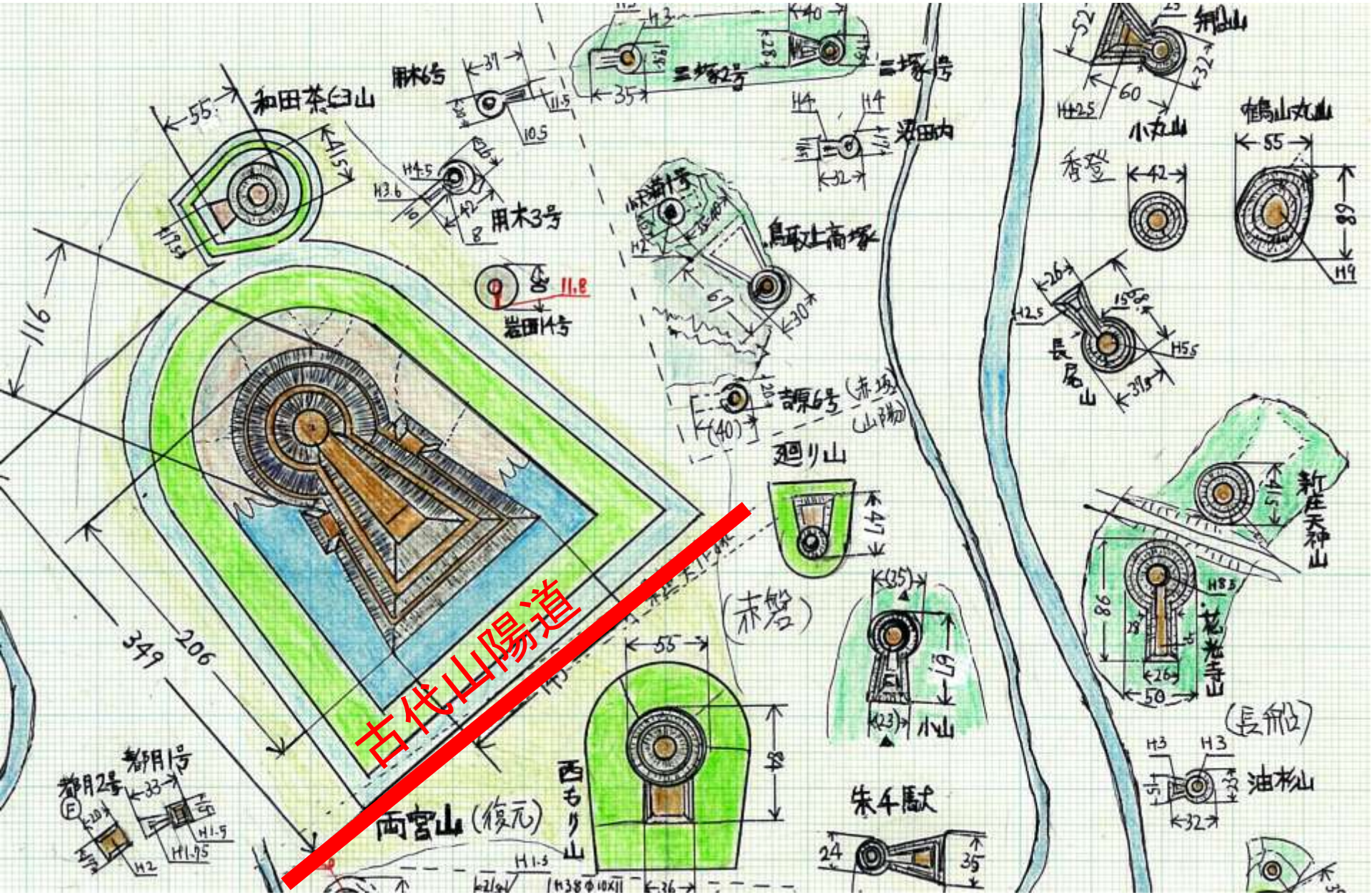
高句麗の広範な外交・新羅の黄金
西域との関連が大きい
シルクロードの草原の道を抑えた

新羅慶州の
天馬塚の王冠・北燕等の
慕容氏の系統
雄略天皇時代押木珠蔓
翡翠は倭国製

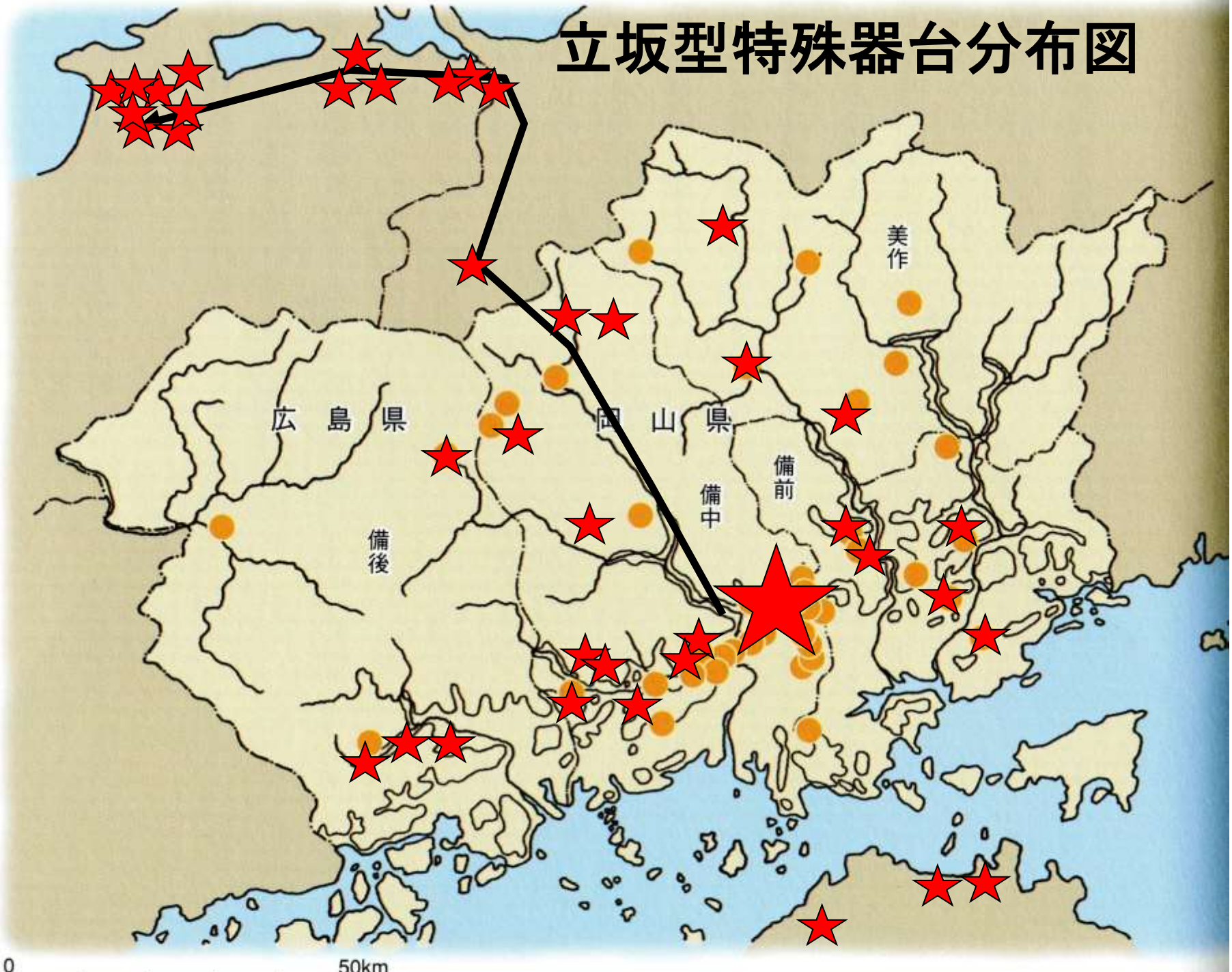
榊山古墳の
龍文透金具は燕系統


AD400年代
地図
北魏
渤海
遼東半島
黄河
山東半島
成山角
遣使ルート
(想定)
墨即
南宋
黄海
海州
下邳
高宝湖
建康
京口
長江
0
100km
120
平壌
高句麗
何瑟羅
漢城
漢江
悉直州
百済
烏嶺
新羅
台馬
江
熊津
泗沘
伽耶山
卓淳
金城
大伽耶
加羅
安羅
帶沙
枕弥多礼
小伽耶
対馬
沖の島
宗像
壱岐
済州島
35
130
450~451年、尾代の通ったルート(想定)

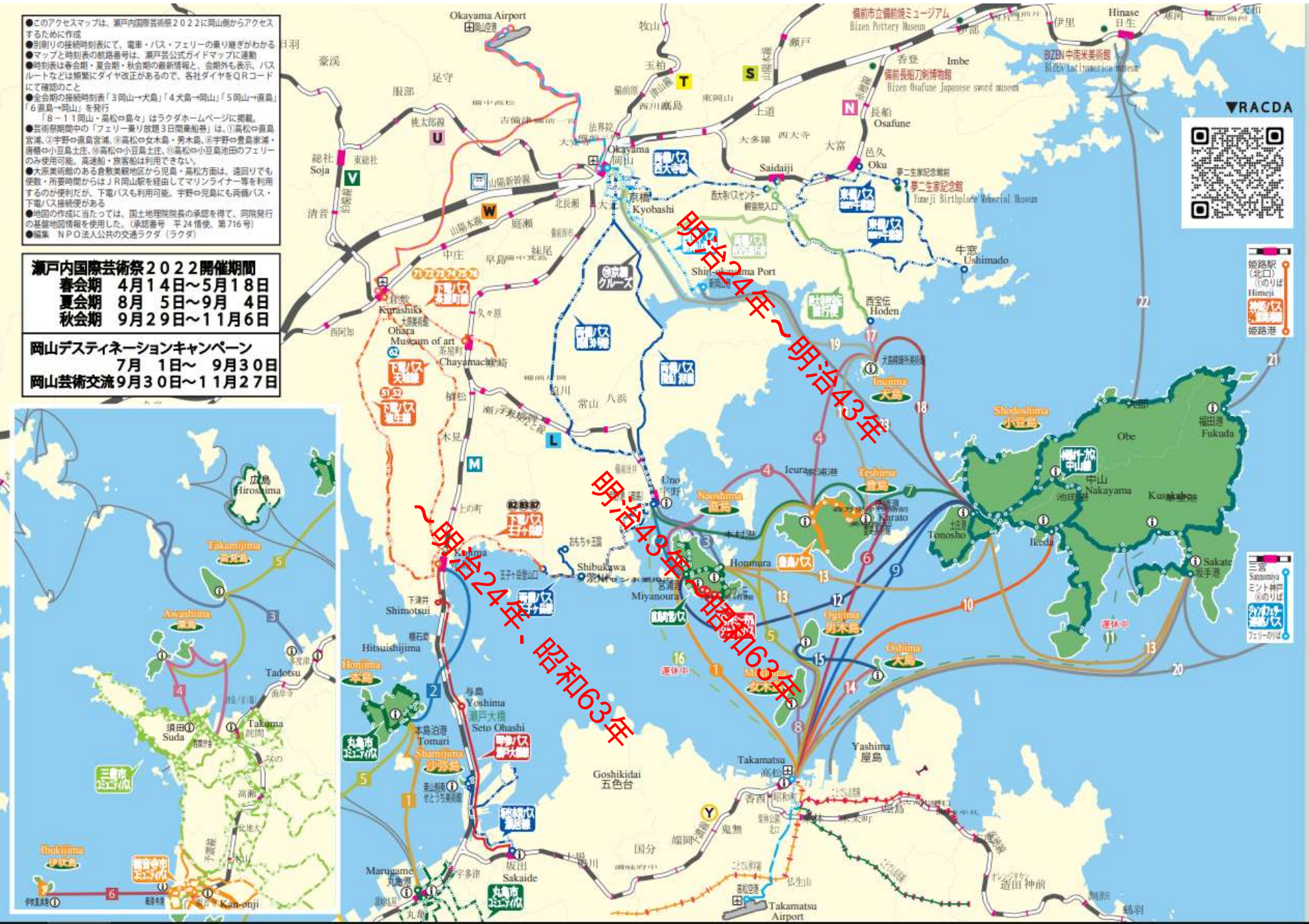
備前・北

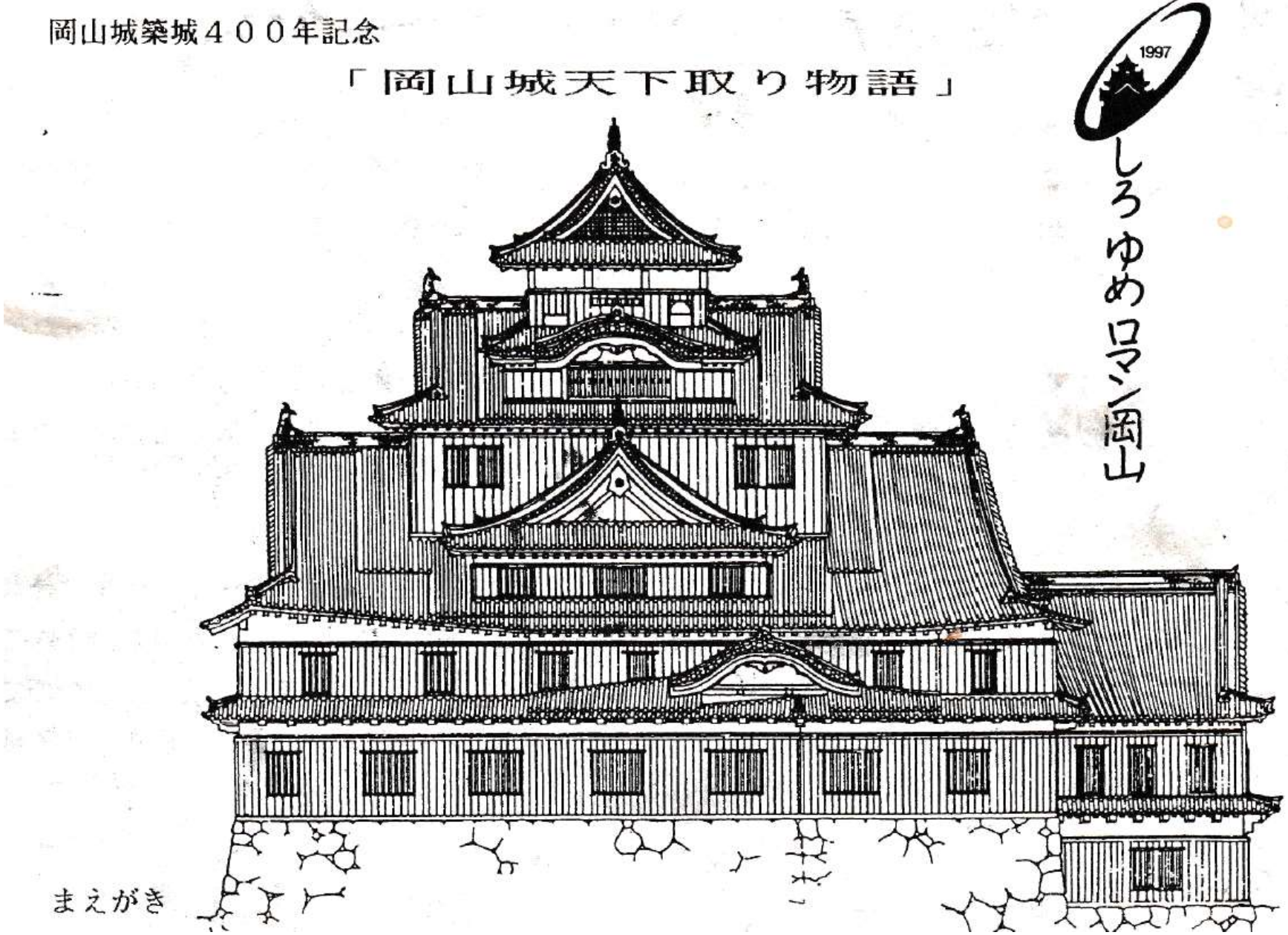

和田茶臼山
用木6号
用木3号
三塚2号
三塚1号
沼田内
小丸山
鶴山丸山
香登
長尾山
新庄天神山
花光寺山
油杉山
(長船)
鳥取上高塚
岩田14号
(赤坂山陽)
廻り山
(赤磐)
小山
朱千駄
西ちり山
両宮山(復元)
都月1号
都月2号
古代山陽道
116
349
206

立坂型特殊器台分布図



時代により変遷した岡山から四国連絡





土肥経平の「備前軍記」1744年や、「中国兵乱記」「備中兵乱記」「児島常山軍記」「天神山記」「虎倉物語」「三星軍記」など「吉備群書集成」に収録

幻想庭園は2000年の後楽園300年以来

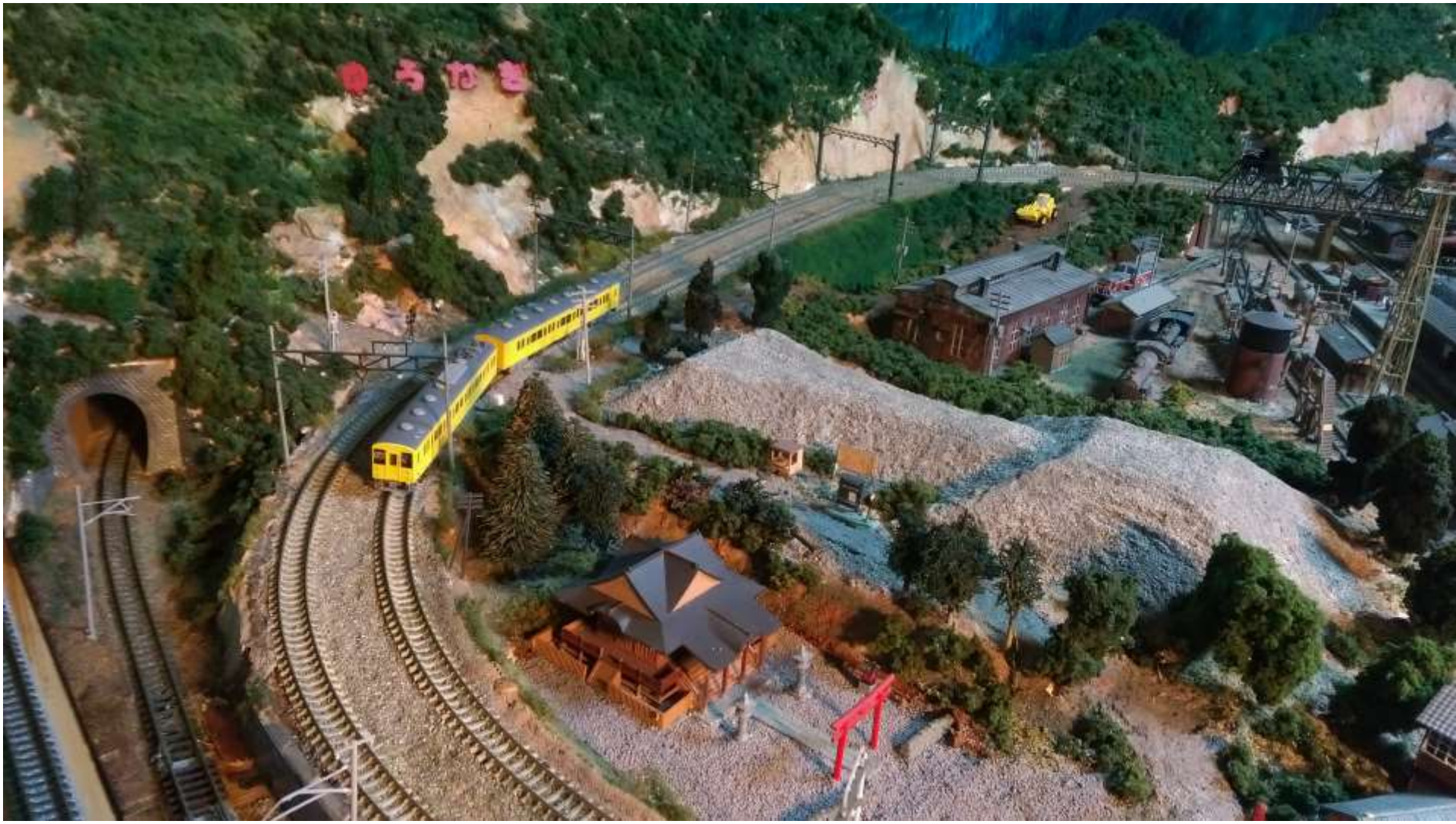
大名庭園サミット

大名庭園を世界の遺産に
全体の講評 ／ 堂士五十八 先生
大会宣言 ／ 大名庭園民間交流協議会 代表幹事 小嶋光信
次回の開催地から ／ NPO法人ふるさと心夢と文化を育てる 理事長 植田秀樹 様
閉会あいさつ ／ 岡山大会実行委員長 大森 實
岡山後楽園
金沢兼六園
小石川後楽園

山電停
新
岡山城へ
Okayama
Castle
MIMOSA

2003 CALENDAR

昭和50年からのゆうなぎ鉄道
「古墳のあるレイアウト」湯迫車塚古墳

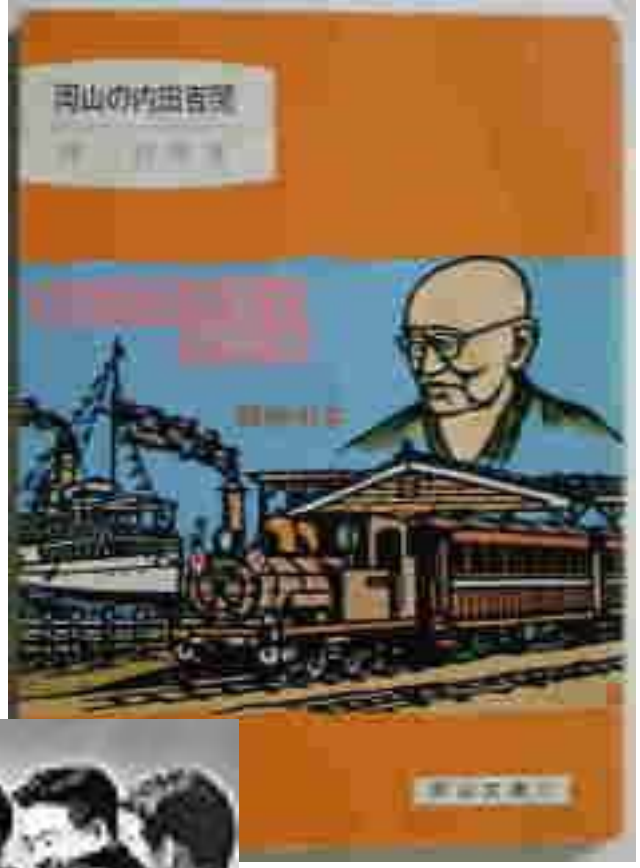


吉備
邪馬台国
東遷説
岡将男
邪馬台国は
吉備にあった。
そして、
大和に移った。
邪馬台国論争再燃を呼ぶ、
古代史ファン待望の
大胆論考!
吉備人出版　定価 本体1600円+税

家形土器は墳頂部に5個、斜面3個、その他2個配置

RSKバラ園前の上東遺跡・波止場？

家形土器・女男岩遺跡
倉敷考古館所蔵


岡山の内田吉彦

第1部　梟雄宇喜多直家と妻お福

① 1534年(天文3年)備前守護代の浦上氏の宿老であった宇喜多能家は、隠居先の邑久郡砥石城において同じ浦上配下の島村豊後守に討たれ、子の宇喜多興家・孫の宇喜多直家は城を失って放浪した。

ほとぼりがさめてから、親子は当時備前最大の都市であった福岡の市の豪商阿部善定のもとに身を寄せたのです。興家は阿部善定の娘を妾として宇喜多春家・宇喜多忠家を生ませ、1536年(天文5年)に亡くなった。

福岡の市は今の長船町にあり、銘刀長船の産地に近接していた。のちに福岡藩主となった黒田長政(黒田官兵衛の子)の先祖が、もとはこの備前福岡の出身だった事から、現在の福岡の名前をつけた。

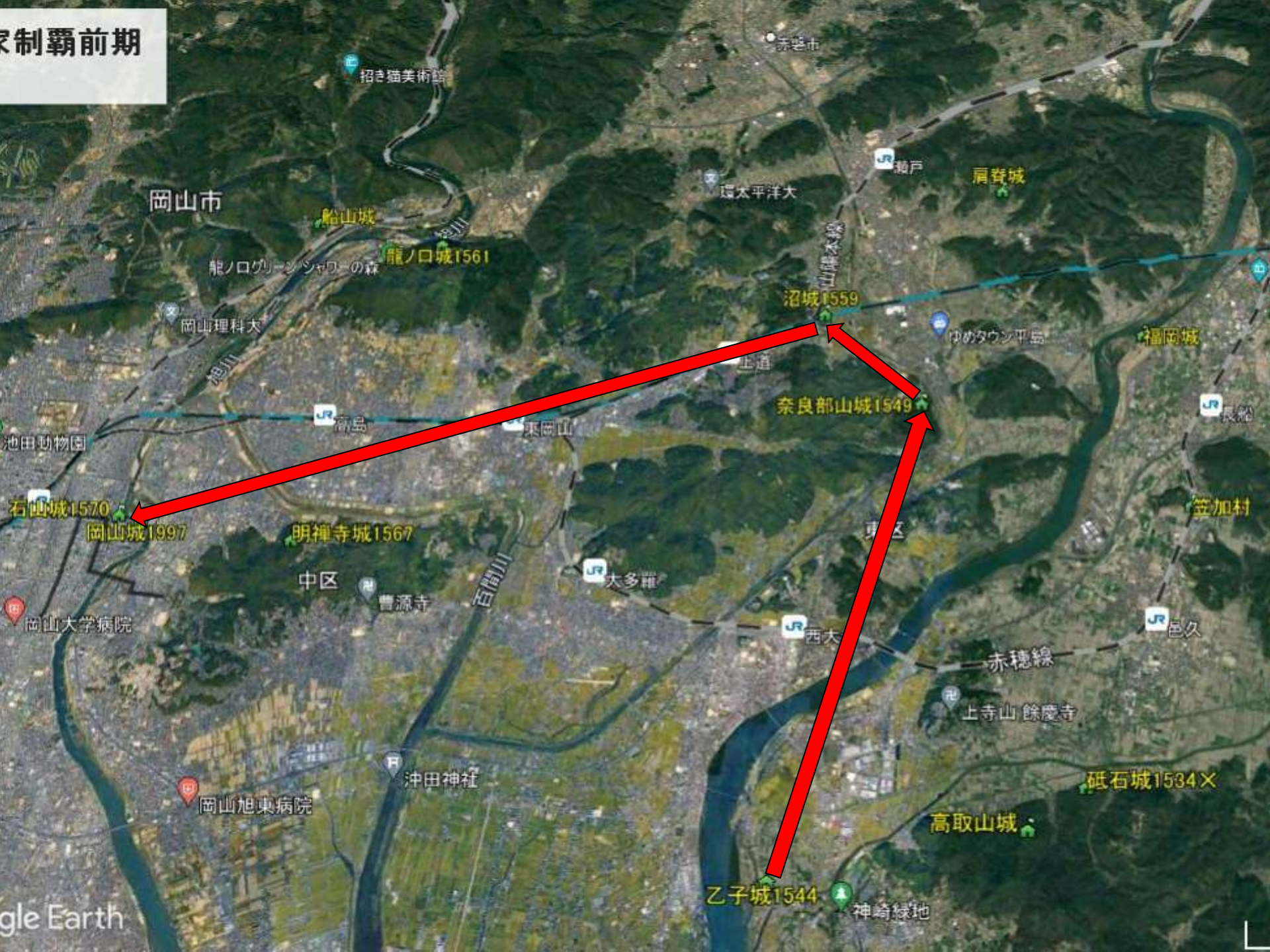
② 能家没後、宇喜多直家の母は浦上家に奉公に上がったので、直家は邑久郡笠加村の尼寺の伯母の元で育てられた。直家は仇敵の島村豊後守の襲撃をおそれ、痴呆を装っていたが、1543年(天文12年)浦上宗景に仕えた。この時に能家時代の多くの家臣が戻り、翌年元服して初陣の功をあげ、邑久郡乙子城主として自立、所領300貫、足軽30人を預かった。

③直家は若くして才覚を発揮し、1549年(天文18年)には浦上宗景の命により砥石城主浮田大和を討ち、岡山市竹原の奈良部城を預けられた。（犬島の海賊対策）

直家は沼城主の中山備中守信正の娘と結婚、そのうち沼城周辺で頻繁に狩りを行うようになり、気のいい中山備中守は直家を沼城に泊めるようになった。

（浦上宗景はNO2を殺し続けた）

家制覇前期


招き猫美術館
赤磐市
瀬戸
肩脊城
環太平洋大
岡山市
船山城
龍ノ口城1561
龍ノログリーンシャワーの森
沼城1559
岡山理科大
ゆめタウン平島
福岡城
上道
奈良部山城1549
高島
東岡山
池田動物園
石山城1570
岡山城1997
明禅寺城1567
笠加村
中区
豊源寺
大多羅
岡山大学病院
西大
巨久
赤穂線
上寺山 餘慶寺
沖田神社
砥石城1534×
岡山旭東病院
高取山城
乙子城1544
神崎緑地
gle Earth

④ 1559年(永禄2年)直家は謀反の噂のあった中山備中守を討てとの宗景の命により、狩りと称して沼城に乗り込んで中山備中を謀殺、続いて祖父のかたきの高取山城主島村貫阿弥をおびきだして沼城で討った。

これを知った直家の妻は奈良部城において自決した。

当時の結婚はほぼ政略結婚であったが、いくら主命でも、馴れ親しんだ妻を自決に追いこんだ事は直家にとってかなりショックであったはず。

その後の直家は結婚を政略結婚の為と割り切って正室を持たず、側室に娘を生ませて政略結婚の道具とした。(宇喜多の棄て嫁)謀略を得意とし、肉親を平気で殺させたという梟雄宇喜多直家像というのがありますが、それは案外開き直りの結果かもしれない。(秀吉・家康との比較)

沼城
凡例
??
???
????
?????
??????
??????????
???????????
??????1566
????FC???
アイテム 1
沼城1559
沼城跡 二ノ丸
宗形神社鳥居
浮田幼稚園
岡山市立浮田幼稚園
Google Earth
N
70 m

領民や配下のものにとっては、大規模な合戦をしない、いい領主であったかもしれない。

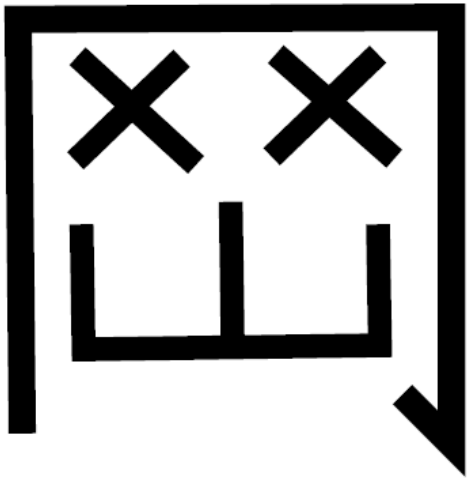
直家が若い時から苦楽を共にした譜代の家臣団を持っていたことも、謀略を可能にした原因。

続いて直家は1561年(永禄4年)には、金川城主松田元輝配下の龍の口城主の穑所元常が男色に目がないのにつけこみ、笛の名手岡清三郎（剛介）を龍の口城の直下で毎晩笛をふかせて城に送り込み、暗殺した。これを機に和田城を落し、岡山平野の中心部を手に入れた。

桶狭間の戦いは1560年

岡は古墳という意味の漢字

- 同構えは木槨、石槨、坑
  ×は死体への入れ墨
  山は墳丘



- 岡本は古墳の鎮守の森
  京都・大阪・奈良に多い
- 福岡市は、岡に福をつけたのでは
  岡平内が普請奉行になり、石山城整備
  福岡上之町、福岡中之町、福岡下之町
- 岡は当用漢字ギリギリ
  人名と地名(岡山・福岡・静岡)に限定使用

厄除け祈願

⑤ 当時備中成羽城主の三村家親は毛利氏と結んで勢力を拡大し、直家は美作の三星城主後藤勝基、備前金川城主松田元盛らと同盟して対抗。

1565年(永禄8年)美作に侵入した三村勢を直家は撃退したが、三村勢は帰りに勝山の高田城を攻略し、城主三浦貞勝は討たれ、その妻であったお福（20才）は子の桃寿丸と共に逃れて、やがて直家に匿われた。

⑥お福はいわゆる作州美人。大変な美女であったともいわれ、またいわゆるいい女であったらしく、戦国の梟雄宇喜多直家でさえも、たちまちぞっこんに惚れ込んでしまったようだ。（岡山のクレオパトラ）

それが証拠に、三浦貞勝の仇討ちを請うお福の意に従って、1566年(永禄9年)直家は美作の久米郡興禅寺に滞在していた三村家親の元へ鉄砲の名人の遠藤喜三郎・又三郎兄弟を派遣し、軍議中を狙って暗殺させてしまった。

そして直家は、お福と正室としてしまったのだから、お福はよっぽどいい女だったのだろう。

⑦遠藤兄弟が直家に高緑で召し抱えられ、三村家では嫡男元親らが直家への復讐の念を燃やした。
1567年(永禄10年)3月、岡山の沢田にある宇喜多の出城、明禅寺城が侵入した三村勢に奪われ、さらにこの城を巡って三村勢2万と宇喜多勢5千の間で合戦(明禅寺崩れ)が起こり、軍略に勝る宇喜多直家が勝利をおさめた。お福の寝物語から岡山平野最大の合戦が起こった。(朝日高校の北側に首塚が現存)

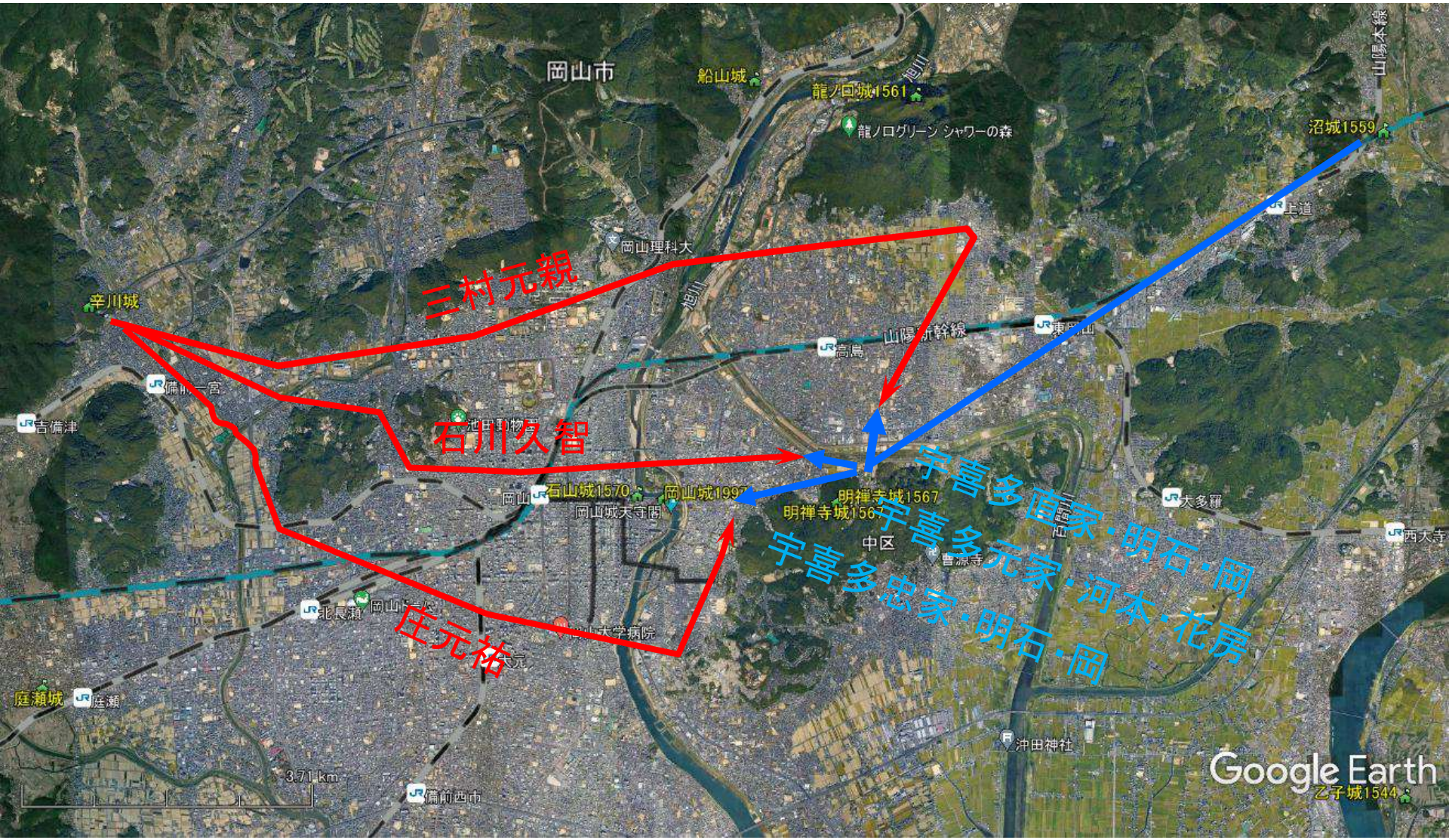
歴史は男がつくり、女が変える。

⑧宇喜多の力が主家をしのぐ程になったのを嫌う浦上宗景は、直家に不信感を募らせる。、直家は金川の松田氏攻略に着手。

軍師角南如慶の計により、1568年(永禄11年)に直家は金川城の裏山の狩猟の許可を得て、狩猟中に反宇喜多の家老宇垣与左衛門を暗殺。

ついで松田氏の重臣で虎倉城主の伊賀左衛門久隆を味方に引き入れて謀反させ、松田元輝を滅ぼした。

1567年(永禄10年)3月、明禅寺崩れ



宇喜多家系図

- 三浦貞勝
  - 桃寿丸
  - お福
    - 秀家
      - 秀高
      - 秀継
      - 豪姫（前田利家４女・秀吉養子）
    - 直家
- 能家－興家
  - 直家
  - 忠家――詮家（坂崎出羽守）

⑨ 1570年(元亀元年)直家は同盟関係の岡山城の金光宗高にいいがかりをつけて自害させ、岡山城を乗っ取り、根拠地にするべく改修。

この年が岡山の都市づくりの元年。石山の城郭を拡大し、北を通る山陽道を城近くに迂回させた。（この年姉川の戦いで信長勢力拡大）

同年直家は浦上宗景の頭越しに、西の大勢力である毛利元就と提携。

毛利家では吉川元春が三村氏との義理を主張して大反対し、三村氏は結局毛利氏と絶縁し、織田方につく。

宇喜多氏が備前を代表する勢力となったのがこの年。

またこの年直家とお福の間に長男秀家が生まれた。

（この年姉川の戦いで信長勢力拡大）

⑩ 1573年（天正元年）岡山城の改修が終わり、宇喜多直家は本拠地を岡山に移した。（普請奉行・岡平内）蓮昌寺が森下の御堂屋敷に移転

この年、足利義昭追放で室町幕府滅亡、毛利氏の鞆に滞在し策動

翌1574年(天正2年)12月宇喜多勢1万は、三村氏に義理立てする吉川勢を除いた小早川隆景軍とともに三村氏の諸城攻略をはじめ、

翌1975年(天正3年)4月に高梁の松山城を陥落させ、ここに三村氏は滅亡した。（この年、長篠の戦い）

同年6月、三村家親の娘鶴姫の嫁いだ常山城主上月隆徳は三村氏に義理立てして小早川勢に攻められ、鶴姫(梢の前)自ら陣頭に立って戦い、最後に城兵婦女子あわせて83人が自害して果てた。常山の合戦（般若院文書では上野隆徳）

⑪1575年7月(天正3年)直家は浦上宗景が兄の所領を奪ったと大義名分を立て、和気郡天神山城を囲み、ついに主君を追い落として備前を統一。浦上宗景は織田氏と提携して直家を押さえようとしたが、既に実力の差は歴然。(「備前軍記」天正5年は誤り、浦上宗景のその後は1580年まで記録あり、紀氏を名乗る)

播磨の御着城の小寺氏家老黒田官兵衛は天下の形勢を見て、反対を押し切って織田方についた。官兵衛は自らの居城姫路城を秀吉に明け渡すほどの肩入れ。

（1577年秀吉の中国攻め開始）

備前を統一した宇喜多は毛利と同盟していたので、西に兵を進められず、当然の事ながら東の播磨に軍を進める。

天神山城陥落後、直家は播磨の佐用・赤穂の二郡を占領し、1577年(天正5年)3月には毛利軍の先鋒として播磨に侵入したが、毛利軍が腰砕けで撤退。

撤退後せっかく占領した佐用・赤穂の二郡を秀吉軍が席捲していると知った直家は再び播磨に侵攻、官兵衛を破ることが出来ず、作戦変更して上月城を奪回。

⑫羽柴秀吉は、毛利に滅ぼされた山陰の尼子氏の遺児勝久と山中鹿之助に上月城を奪回させて入城させた。

元々美作には尼子氏勢力もいた時期もあり、中国路にはまだまだ尼子氏の残党がいた。

直家は再三上月城の再奪回を企て、ついに成功。
秀吉は再び大軍で上月城を囲み、またまた奪回し、婦女子まで皆殺し、後に尼子勢を入れた。

（美作を舞台にした、横溝正史原作の映画「八墓村」も尼子氏残党の亡霊が出てくる）

このようにした佐用郡上月城が毛利・宇喜多連合軍と織田方の争奪の的になった。

1578年(天正6年)3月、播磨三木城の別所氏が毛利方に寝返ったのを機に、毛利軍の第二次東上作戦が始まる。

（三木城包囲戦）

上月城の奪回が焦点で、毛利勢2万が城を囲んだが、直家は1万4千の軍勢を出したものの、日和見を決め込み、自らは病気と称して出馬せず。

直家は既に織田信長に天下の勢いを感じていた。

上月城は7月陥落し、秀吉は中国路での大きな橋頭堡を失う。

四方八方に敵のいた信長は、上月城を見殺し。

直家はとりあえず毛利の陣へ出向いたが、両者には深い溝ができた。

秀吉は上月城の穴を埋めるため、岡山に縁のあった堺の商人の子の小西行長を使者に立てて、
宇喜多家に同盟を申入れた。１５７９年(天正7年)8月直家は一族の基家を使者として別所氏攻略中の加古城に送り、宇喜多と織田の同盟が結ばれ、宇喜多は毛利と袂を分かつ。

⑬ １５７９年(天正7年)9月小早川隆景は、早速宇喜多領へと侵攻し、合戦。しかし直家は今度は本当に病床にいて出陣できず、若い基家が総大将となり、直家の弟忠家が基家の後見となって出陣。（辛川くずれ）、大軍の小早川勢が負けた。

12月には毛利軍は吉備郡高田の忍山城を兵3万で囲み、城は援兵のないまま陥落。戦火は広がり、じわじわと宇喜多は押された。秀吉はなかなか備前まで来れず、直家は悪性の腫瘍で、出陣でぎず。

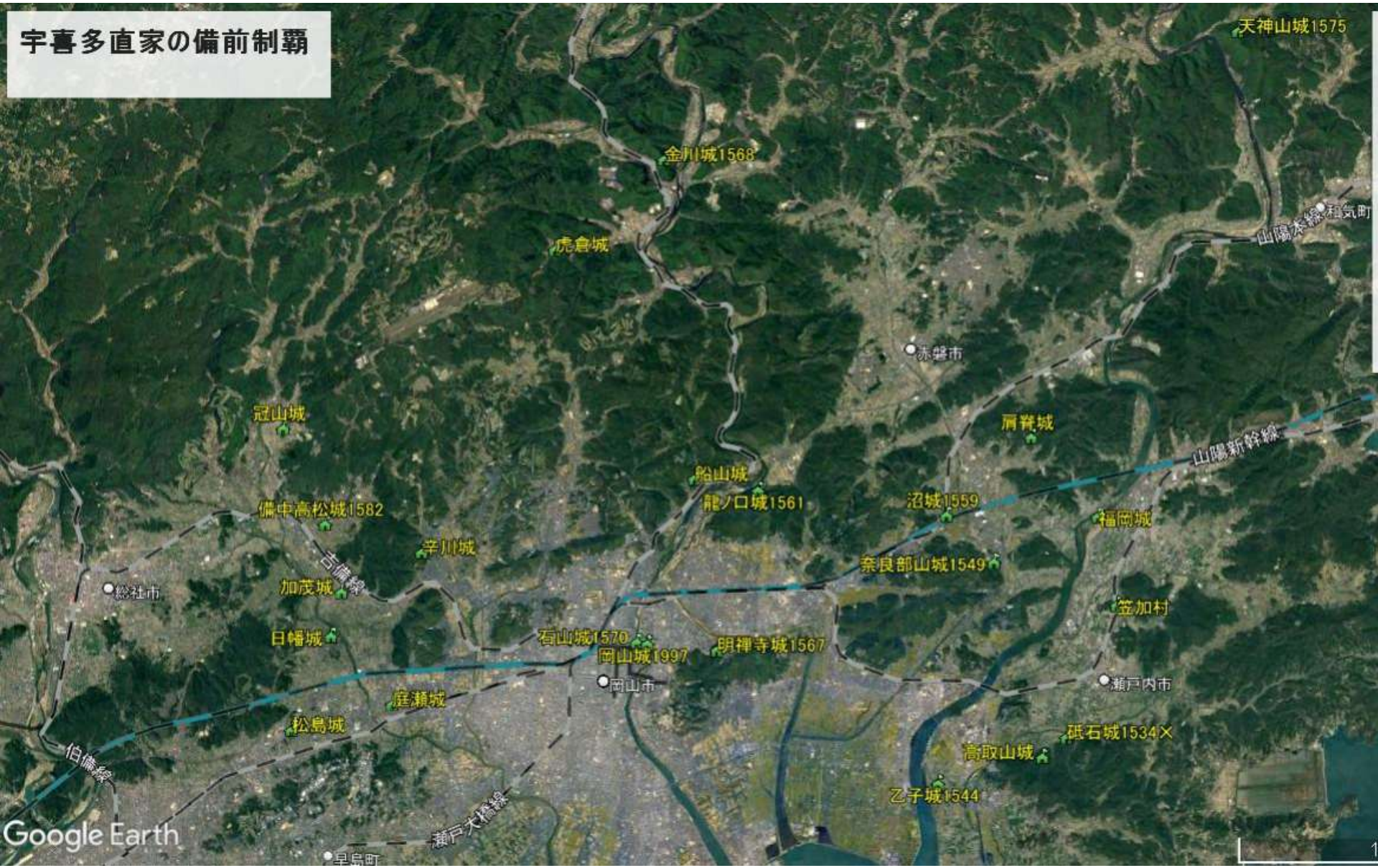
⑭ １５８１年(天正9年)2月14日、宇喜多直家は遂に息を引き取る、53歳。喪は秘されて、弟の忠家が家政をとる。お福も子の八郎(秀家)を擁して、大きな発言力か

。

8月には毛利軍との間に八浜の合戦、大将の宇喜多基家が戦死するというハプニング、直家の死はなお秘密とされ、同盟軍の秀吉にさえ報告せずしかし直家は宇喜多家と八郎の将来を秀吉に託すべき事をお福に遺言していたようだ。

備前の国の一隅から身をおこし、才覚と謀略によって一国を統一した直家の人生は、ともすると暗い面ばかりが強調されるが、戦国時代においてはむしろ平和的に統一を為し遂げた方であり、もっと評価されるべき。さらに宇喜多家の去就が天下統一のキーポイントともなった。

宇喜多直家の備前制覇


天神山城1575
金川城1568
虎倉城
和気町
山陽本線
赤磐市
冠山城
屏賀城
山陽新幹線
船山城
龍ノ口城1561
沼城1559
福岡城
備中高松城1582
辛川城
奈良部山城1549
吉備線
総社市
加茂城
笠加村
日幡城
石山城1570
明禅寺城1567
岡山城1997
岡山市
瀬戸内市
庭瀬城
松島城
砥石城1534×
高取山城
伯備線
乙子城1544
瀬戸大橋線
Google Earth

第2部 宇喜多秀家と豪姫、秀吉とお福

① 1582年(天正10年)正月、ついに宇喜多直家の喪を公表。お福は重臣達と協議の上、織田家にその由を通告し、織田信長は羽柴秀吉の後見のもと宇喜多家に本領を安堵。この年の4月4日秀吉は岡山城に初めて入城してお福と八郎に出会った。

秀吉はお福に一目ぼれし、秀家をことのほか可愛いがり、自分の名前から一字とって秀家と名付けた。(豊臣秀家)

お福は宇喜多家と秀家を守るために秀吉を受け入れ、秀吉はお福に惑溺。当時の秀吉は足軽以下から取り立ててもらったの信長の一武将であったので、信長には全く頭があがらない。以前長浜城主時代に側室をもうけたところ、正室のねねが岐阜の信長の所へ行って愚痴を言ったことがある。

信長はすぐに秀吉を呼び付けて叱った、後の関白時代のように多くの女性をはべらせることなど到底できなかった。

女にうつつをぬかす間には、いくさでもしておれというわけ。

だから秀吉にとって正室ねね以外にははじめて勇気づけられ相談できる存在の女性となったのがお福であったろう。

しかもお福は二度も夫に先立たれ、謙虚に振舞う事を知っていたから、後の淀君のような問題もなかった。家康が今川義元の姪の築山殿に苦労した事とも対比できる

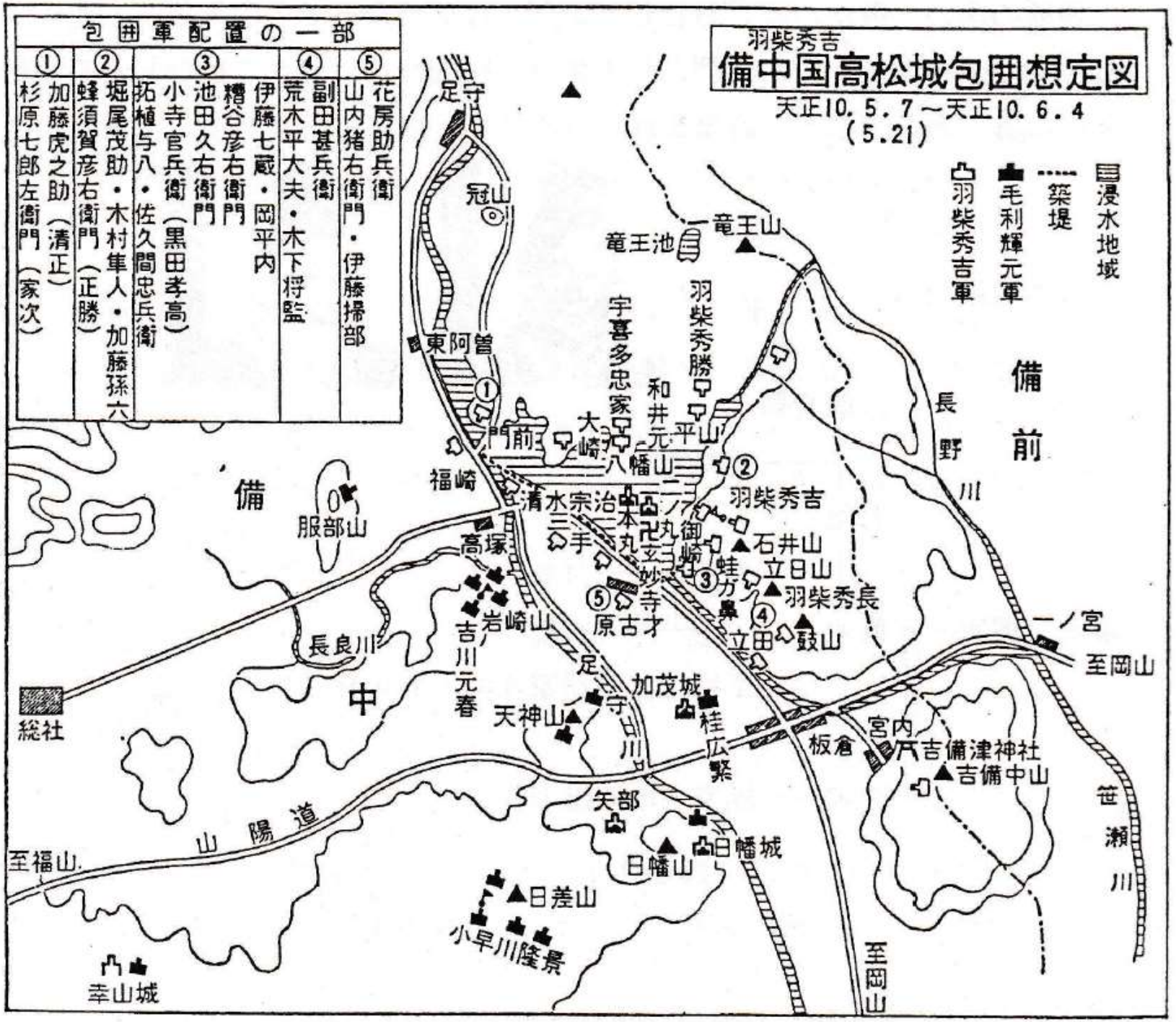
お福はこれから中国平定という大事業にむかう秀吉にとって、最良のパートナー、子のない秀吉は本気で秀家を養子にしようとした。（相続権の無い猶子）

②毛利と宇喜多の手切れ以後、備中には毛利勢が続々と侵攻。

秀吉は宇喜多勢と共同して毛利との前線に出た。

毛利氏は前線に宮山路城(足守)、冠山城(下足守)、高松城、加茂城(岡山市加茂)、日幡城(倉敷市日畑)、岩崎城、鴨荘城、松島城、庭瀬城等を連珠し、宇喜多羽柴連合軍はこれらを一々落とす。

名将清水宗治5千が守る備中高松城が対峙点となり、秀吉は3万の兵で城を包囲し、小早川隆景は西の日差山に本陣を置いた。(造山古墳にも布陣)秀吉は2回の力攻めに失敗し、毛利本隊4万の来援の情報を得るに及んで、急拠織田信長本人の来援を要請。黒田官兵衛孝高の献策により、高松城を水攻めにすることに決定し、早速堤防工事がはじまり高松城は陸の孤島となった。


羽柴秀吉
備中国高松城包囲想定図
天正10.5.7～天正10.6.4
(5.21)
浸水地域
築堤
毛利輝元軍
羽柴秀吉軍
包囲軍配置の一部
①
加藤虎之助（清正）
杉原七郎左衛門（家次）
②
堀尾茂助・木村隼人・加藤孫六
蜂須賀彦右衛門（正勝）
③
池田久右衛門
小寺官兵衛（黒田孝高）
拓植与八・佐久間忠兵衛
④
副田甚兵衛
荒木平大夫・木下将監
伊藤七蔵・岡平内
糟谷彦右衛門
⑤
花房助兵衛
山内猪右衛門・伊藤掃部
足守
冠山
竜王池
竜王山
羽柴秀勝
宇喜多忠家
和井元
平山
大崎
八幡山
東阿曽
前
福崎
清水宗治
本丸
玄
妙
寺
三ノ手
御崎
蛙ガ鼻
羽柴秀吉
石井山
立日山
羽柴秀長
鼓山
立田
原古才
高塚
岩崎山
吉川元春
服部山
備
中
長良川
総社
足守
天神山
加茂城
桂広繁
宮内
吉備津神社
吉備中山
板倉
矢部
日幡城
日幡山
日差山
小早川隆景
幸山城
山陽道
至福山
至岡山
一ノ宮
至岡山
笹瀬川
長野川
備前

造山古墳から高松城方面

一方毛利方の政治僧安国寺恵瓊と講和条件が話し合われたが、決着せず。

緊迫した情勢下、秀吉は度々岡山城に帰ってお福に会っていたという、お福にいかに惑溺していたかがわかる。

③ この時、天下をゆさぶる大事件が勃発。

秀吉救援に赴く信長が近従のみで京都の本能寺に滞在したのは1582年(天正10年)6月2日。信長から秀吉救援を命ぜられた明智光秀は謀反を起こし、本能寺の信長はあえなく最期をとげた。

最近の書状発見では、長宗我部との交渉をしていた光秀が、信長の四国攻めを知り、謀反したのではないかとの説あり。

秀吉が本能寺の変を知ったのは6月3日の夜半。明智から毛利に宛てた密使を捕らえた。それまで信長の配下で馬車馬の様にこきつかわれていた秀吉は、大変な衝撃を受け、しばらくは放心状態であった。あまりに泣くものだから、側近の黒田官兵衛が

「さてさて天の加護を得させ給ひ、もはや御心の儘になりたり」と言った。（幸運にも上様が亡くなったのだから、誰に遠慮することもなく天下を取れ）

軍師・官兵衛の示唆で秀吉の中国大返しに成功、官兵衛が秀吉に天下を取らせたともいえる。

官兵衛はすぐさま秀吉の意を受けて、安国寺恵瓊と交渉し、清水宗治の切腹によって城兵の命を助け、毛利は織田方に領土を割譲するとの条件で講和を結んだ。

④　6月4日の昼には清水宗治は切腹、6月5日水攻めの堤防を破壊、秀吉軍は信長の弔い合戦にむけて走り出した。天下取りの行軍。

しかし秀吉は主君信長の死に結構ショックを受けて動揺していたので、黒田官兵衛は秀吉を元気づけようと本隊は沼城に先行させ、秀吉を岡山城まで帰らせて休息させ、お福に会わせた?お福は一世一代の大勝負に向かう秀吉を大いに元気。

織田の他の武将の動きが一番気になる微妙な時期の一夜を秀吉はお福と共にすごしたか。官兵衛としても、大将が元気でなければいかなる策も通じないと考えた。見事秀吉は一晩のうちに精神的に立ち直り、天下取りに走りはじめた。たまたま梅雨の豪雨が吉井川を氾濫させ、秀吉は姫路に帰るまで結構苦労したが、脅威的速さで山陽路を走った。

（中国大返し）

⑤　岡山城をあとにした秀吉は、姫路城で一休止し、天下取りに一気につき進む。そして6月12日の山崎の合戦で勝利を治め、続いて織田家跡目相続会議ではわずか3歳の嫡孫三法師を立てて自分は後見役に収まった。

１５８３年(天正11年)4月21日の賤ヶ岳の戦いで柴田勝家を破り、織田の旧領をほぼ確保。この戦いでは池田利隆の祖父中川清秀が亡くなった。

⑥ １５８４年(天正12年)3月の小牧長久手の戦いでは、秀吉は徳川家康と対峙したが、宇喜多勢から岡利勝、長船貞親、花房職秀ら1万5千が参戦。これも一途に秀吉を頼みとしたお福の意思が反映。

一方後に岡山城主となる池田家では、当主の池田信輝と長男の之助が陽動作戦に失敗して戦死し、次男の輝政のみがかろうじて生き残り、後に岐阜城主(10万石)となった。宇喜多勢はさらに四国征伐など、秀吉の全国統一戦に次々と参戦。

⑦1585年（天正13年）お福は秀吉のたっての要請で新装なった大坂城へ移った。

しかしお福は秀吉の側室になったわけではない。

お福はおそらく秀吉のセカンド・レディーといった存在だったろう。

大名の母親が側室になれず、秀吉の側室リストに載らなかった。

だから秀吉とお福の関係を証明するものは何も無い。ただ秀家の異例の出世がそれを証明。秀家には中の島・備前屋敷が与えられた。

お福はいつも大坂城の西の丸にいて秀吉のよきパートナーとなったのです。

整理者以外の駐車厳禁

法鮮尼遺績碑
この五輪塔は岡山城主宇喜多秀家の生母おふくの方の供養塔であります
おふくの方は文禄三年十二月十一日(一五九四)世を去り遍昌寺の過去帳に法名阿鮮大姉とあり俗にお鮮さんと親しみ呼ばれています
おふくの方ははじめ作州高田城主三浦貞勝の夫人としてその落城に遭いやがて宇喜多直家に迎えられ秀家を生みました　のち豊公を恃み秀家を五大老として天下に重きをなさしめ戦国時代に家門を高揚したけなげな女性であります
前に昭和四十八年岡山開治四百年を記念して烏城公園内に宇喜多父子顕彰碑が建てられましたがその陰の功労者であるおふくの方の名を知る人は稀であります
よって茲に有志の者相謀りその恩徳を偲み且つその遺績を永く顕彰しようとするものであります
緬想往事　委克和剛　興亡若夢　鮮尼鎮腸
縹然三塔　千秋遺芳　樹碑欣剛　鈴慶孔彰
昭和癸亥五十八年(一九八三)四月三日
法鮮尼顕彰会
松田壮三郎　小橋　弘
浮田嘉寛　妹尾晴雄
稲津頼依　常原孝一郎
近藤吉三郎　篠原憲市
岩本裕重　花工
赤松定吉　(有)江島石材工務店

お福の方（お鮮）供養塔

宇喜多秀家の生母、宇喜多直家の正室

「お鮮さまのお墓を見れはさても結構なお墓でござろ」と昔から岡山で歌い継がれてきた手鞠歌にある「お鮮」とは岡山のクレオパトラといわれた宇喜多秀家の生母「お福」のことです。

初めの夫勝山城主三浦貞勝が落城自刃後宇喜多直家に寵愛されさらに直家亡き後高松城水攻めに来た羽柴秀吉に見染められ後に大坂城に招かれました。秀吉が秀家を自分の猶子とし幼い時から養女として育てていた前田利家の娘豪姫を娶せて岡山城を作らせその上五大老の一人としたのもすべてお福のおかげともいえます。

お福の没年については諸説ありますが宇喜多時代に森下の御堂にあった蓮昌寺の関係でここ塔の山の徳與寺境内にこのお墓があるのではないかと思われます。秀家は関ヶ原の合戦で律儀にも西軍の実質的総大将者となって敗れ岡山では宇喜多家に関わるものは抹殺されましたがわずかに手鞠歌として庶民に語り継がれたのがこのお墓でしょう。

平成九年一月

岡山城築城四百年記念

国際ソロプチミスト岡山

この上

⑧ 1587年(天正15年)2月、宇喜多秀家は秀吉の九州征伐で初陣を飾り、秀吉の贔屓で宮中の官位も異例の昇進、これもお福の存在と秀家のすずやかさが秀吉の心を動かした。

1589年(天正17年)秀吉は若い時からの盟友の加賀百万石の当主前田利家の四女豪姫を秀家の正室として輿入れさせた。秀吉がいかに宇喜多家を信頼していたかがわかる。(ほとんど大阪在住で、1587年に一度のみ岡山に来たという)

秀吉には子が無く、豪姫は生まれるとすぐ秀吉の養子となり、秀吉の妻ねねや大政所に育てられてた、秀吉の本当の子のようであった。

豪姫には前田家から中村形部次郎兵衛が付家老として来た。

秀吉の養子といえば、まず信長の子の羽柴秀勝がいる。

続いて徳川家康の次男であった結城秀康がいる。小牧長久手の戦い以後、徳川との融和の為に縁組み。

次の豊臣秀次は後に関白となるが切腹させられる事になる人。秀吉の姉の子です。

さらに秀吉の正室ねねの兄の子が小早川秀秋。いずれも大大名か兄弟の子。

宇喜多秀家が秀吉の子として名実ともに遇されていたのがよくわかる。

⑨ 1590年(天正18年)秀吉は小田原の北条氏を滅ぼし、徳川家康を関東に封じて天下統一を成就。

この時、池田輝政は家康の押さえとして、三河国吉田15万2千石に封じられた。池田は織田信長の乳母の家系。

宇喜多秀家は豊臣政権の中枢におり、桃山文化の担い手として秀吉からかわいがられ、またそれにふさわしい姿を要求された。茶人としても洗練、貴公子然としたその立ち居振舞は秀吉のお眼鏡にかなった。

おそらくお福は秀吉への忠誠心を、とことん秀家に叩き込んだ。しかし、秀吉の子として振舞うということは交際費など経費の必要も尋常ではなく、国家老の宇喜多左京亮詮家(宇喜多忠家の子、秀家のいとこ、後の坂崎出羽守)_と対立する原因ともなった。

⑩ 1590年宇喜多秀家は秀吉の命により、その家格にふさわしい岡山城と城下町の造営に着手。早い話が、「今日岡山の町があるのは、お福がいい女だったから秀家が出世したから」なのだ。

金箔瓦のとる岡山城が完成したのは1597年（慶長2年）。おそらく秀吉自身が城の縄張りに口を出した、秀吉の子の居城として、いわば豊臣政権の西の押さえといった意味もあった。

岡山城の天守閣は、黒を基調とした古式に属し、安土城の天守閣に似ている。江戸初期の一連の天守閣群の先駆となるもののひとつ。

秀家は秀吉の指導のもと文禄検地を断行、在地の家臣団との対立の火種となった。家臣をそれぞれの領地から分離し経済官僚化するこの改革は、まだまだ若すぎて苦労知らずの秀家にとって荷が重たかった。

0系新幹線
鉄道

1989年　京橋朝市開催
毎月第一日曜現在387回・30年
市民グループと地元町内会
出展料で運営100店舗
県外から出展「楽市楽座」

⑪1592年(文禄元年)秀吉は朝鮮征伐を開始、秀家も参戦したが、この事は当然藩の財政を圧迫した。1593年(文禄2年)秀吉に秀頼が誕生、誠実な秀家は秀吉に何の疑念も抱かせず、その地位は変化無し。

翌1594年(文禄3年)秀家は権中納言に昇進、この年に三河の池田輝政は秀吉の命により、徳川家康の二女良正院富子(督姫)を継室とした。

富子はもともと北条氏直に嫁入り、北条氏滅亡後徳川に出戻り。当時の政略結婚のすさまじさの一例。

なお輝政の元の妻は中川清秀の娘だが、長男利隆を生んだあと病弱を理由に離縁された。実は、家康はこの結婚で池田輝政を取り込む為に、前妻を離縁させた。それが証拠に、後に九州の大名となった中川家では、この事を恨んでいた節がある。

富子には沢山の子ができ、その子達は後に家康が将軍になってからは将軍の孫、池田家の騒動の原因ともなっていく。

⑫ １597年(慶長2年)慶長の役がおこり、秀家は再び参戦。この時秀吉の正室ねねの兄の木下家定(初代足守藩主)の第五子、小早川秀秋(金吾中納言、筑前の大名) は総大将として活躍したが、軽挙なふるまいがあったということで秀吉の不興を買い、越前北の庄に転封されかけた。

しかし徳川家康の助言により許されて本領安堵。小早川秀秋は家康に借りが出来た。関ヶ原での西軍から東軍への寝返りの一つの原因となるという。

なおこの年岡山城が完成。

⑬一方宇喜多秀家は若くして五大老にはなったものの、まだまだ岡山57万4千石を背負っていくには未熟すぎた。1598年には後に宇喜多家家中騒動が勃発。

この年豊臣秀吉が亡くなると同時に、くすぶっていた戸川達安、宇喜多忠家、宇喜多詮家、岡越前守、花房志摩守らの武将派と長船紀伊守、中村次郎兵衛らの文吏派の対立が激化、秀家が日蓮宗を弾圧したことから対立は極限に達した。

秀家と反りのあわない戸川達安が仕置家老となる、武将派は中村の処分を要求し、ついに中村の取り立てた寺内道作が殺害され、激怒した秀家は戸川暗殺を企てた。

そこで武将派は大坂玉造屋敷に250人で立てこもり、一触即発の事態となったが、家康の意を受けた大谷刑部、榊原式部大輔らの仲介で事態は収拾。戸川、花房らは家康預かりが、譜代の武将派が宇喜多家から離反した事は、関ヶ原の合戦を前に宇喜多家の弱体化という結果をもたらした。

同じ事が豊臣政権本体でも起った。石田光成ら文吏派と、加藤清正・福島正則・黒田長政・池田輝政・細川忠興ら武将派の対立。

武将派が石田光成を殺害しようとし、あろうことか光成が徳川家康のところへ逃げ込んだ。家康の仲介で光成は助かったが、大坂城を出て居城の佐和山城に蟄居。この二つの事件は、家康が巧妙に仕組んだ天下取りへの戦略の一環だったといわれている。

⑭ １６００年(慶長5年)9月15日 関ヶ原の戦いにおいて、宇喜多秀家は西軍8万5千の総大将として奮戦し、小早川秀秋の寝返りによって西軍総崩れとなり、秀家は伊吹山に逃れた。

お福、前田家などの努力により秀家は伊吹山にて自害したと報告され、家康は戦後処理として岡山城を没収し、小早川秀秋に与えた。

す。

500m以上
400～500
300～400
200～300
100～200
50～100
0～50

東軍本陣
東軍
西軍
寝返り軍
内応軍

北国街道
石田三成
小西行長
宇喜多秀家
大谷吉継
津義弘
黒田長政
細川忠興
織田長益
山内一豊
浅野幸長
池田輝政
中山道
相川
徳川家康
桃配山
本多忠勝
井伊直政
藤堂高虎
京極高知
福島正則
南宮神社
吉川広家
南宮山
長束正家
安国寺恵瓊
毛利秀元
長宗我部盛親
小早川秀秋
松尾山
今須川
藤川
数川
0 1 2km

9　関ケ原の戦い布陣図　戦いが開始される直前の９月15日午前８時ころの状況。

東軍に加わった

坂崎出羽守(宇喜多詮家)は石見の津和野3万石、

戸川達安は備中の庭瀬2万9200石(庭瀬藩)、

小早川秀秋の父である木下家定は足守2万5千石(足守藩)を与えられた。宇喜多家の元家老達が岡山の近くに配されているのも興味深い。

岡山城接収は、戸川達安・坂崎出羽守・花房助兵衛尉

なお岡豊前守は関ヶ原に参戦せず、倉敷の宇喜多堤の工事（1583年）のつてで、西阿知に移住して帰農した。

池田輝政は家康の娘婿として関ヶ原の戦いの前後で政治的にも大活躍し、三河吉田15万2千石から姫路52万石に加増され、また弟の池田長吉も鳥取6万石に封しられた。

第3部　将軍家と池田家

①1601年(慶長6年)6月京都の前田家屋敷に匿われていた宇喜多秀家は、薩摩の島津家を頼り、鹿児島に行き、その保護下に入った。

関ヶ原の合戦で西軍に属した島津義弘は、責任を取って隠居、島津家自体は和戦両面の構えで、徳川と睨み合い。徳川側も関ヶ原の直後で、とても遠く九州南部まで討伐軍を派遣する力はなかった。秀家にとって唯一安全な隠れ家であった。

またお福も豪姫も出家して京都に移る。豪姫の実家の前田家は健在で、二人は前田家の援助を得られた。

一方姫路の池田輝政は家康の命により、現存する姫路城の壮麗な天守閣の造営を開始。'

② 1602年(慶長7年)秀家を匿っていた島津家は、粘り強い交渉の末、本領安堵を家康から獲得。

一方岡山城の小早川秀秋は城郭を補修したり、二十日堀を作るなどしたが、関ヶ原の戦いの精神的ダメージから立ち直れなかったのか、鷹狩りに没頭するだけでなく殺生をも好み、家中は乱れた。

家老の稲葉正成も岡山を退去し、庭瀬城の戸川を頼った。なお稲葉の妻は後の春日局(明智光秀の家老・斉藤利三の娘、徳川家光の乳母)、岡山城内に住んだ時、正成の妾を斬り殺し、退散した逸話有り。「この女性をわしにくれよ」と家康が正成に言った事から、家光は家康の子との風評もある。

結局この年秀秋は死亡、その死因については謎も多い。秀秋には嗣子がなく、お家は断絶。

③ 1603年(慶長8年)2月、岡山28万石は姫路城主池田輝政の次男で家康の外孫にあたる池田忠継に与えられた。

忠継の母は家康の次女良正院督姫富子だから、富子が家康におねだりして岡山城を与えられた。

忠継はまだ4歳と幼く、輝政は長男の池田利隆を備前監国として岡山に派遣して治めさせ、忠継は姫路城の備前丸に住んだ。

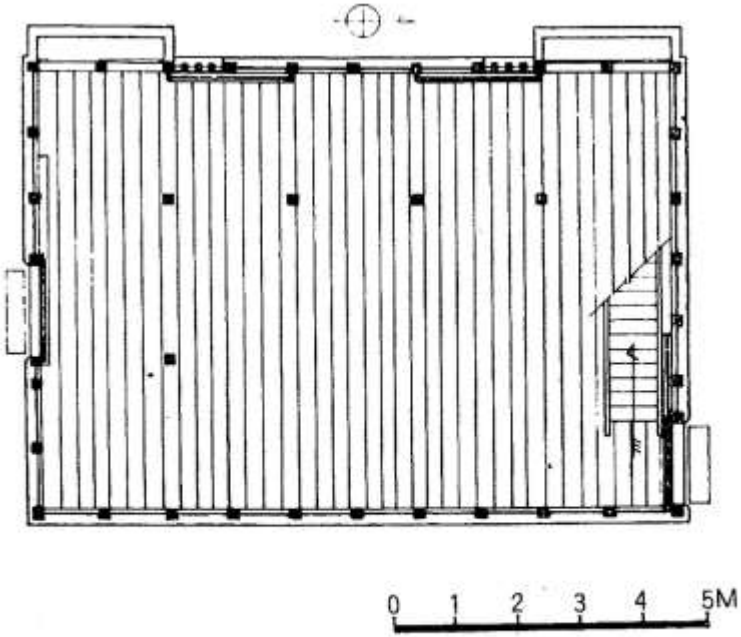
自分の子がかわいいというただそれだけの理由の富子のおねだりはこの後も続くが、それは大きな事件に発展していく。

この年、家康はついに征夷大将軍に任じられて江戸幕府を開いた。

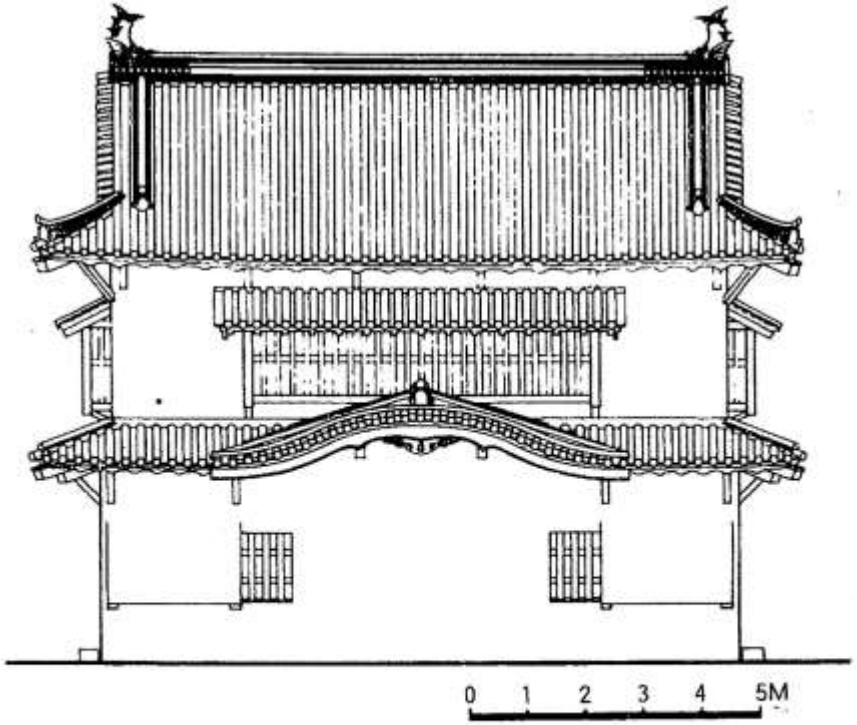
国指定重要文化財

1603年の建築

岡山城西手櫓（にしてやぐら）



一階の平面



西面の立面

（『岡山県の文化財』（一）岡山県教育委員会　1980から）

④　同年8月島津藩から幕府に秀家を匿っている事が報告され、秀家は京都所司代に出頭。

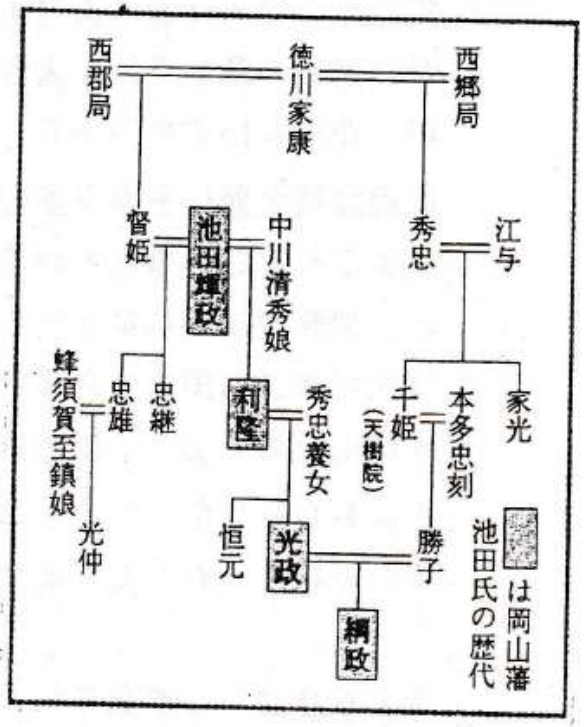
家康としても秀家の処遇は重要であった。大坂の豊臣秀頼はまだまだ豊臣氏恩顧の大名の拠り所となっていたし、島津家や前田家からは秀家赦免の嘆願書が出ていた。

関ケ原の最終戦後処理として幕府は慎重に審査し、ついに「死一等を減じ駿河久能山に幽閉」と決まった。

この年豊臣秀頼は11歳、秀忠の娘千姫(7歳)との婚義が整い、徳川と豊臣の関係は表面上穏やかにみえた。

池田家系図

織田信行（織田信長弟）
- 織田信澄
- 女（善応院）
  - 池田信輝
    - 之助
      - 由之（下津井城代）
      - 女（斎藤義龍女）
    - 糸子（中川清秀女）
      - 利隆
        - 鶴姫
        - 光政
          - 綱政 ―― 岡山藩池田氏
          - 勝子（千姫の娘）
      - 輝政
        - 忠継
        - 忠雄 ―― 光仲 ―― 鳥取藩池田氏
        - 輝澄
        - 政綱
        - 輝興
      - 富子（徳川家康二女）
    - 長吉（鳥取城主）――長幸（備中松山城主）



⑤ 1605年(慶長10年)秀頼は右大臣に、次の将軍は秀頼ではないかという希望が豊臣恩顧の大名に生まれた矢先、家康は秀忠を2代将軍として、豊臣方の希望を断ち切った。

将軍職が徳川家に継承されると決まった事で、幽閉中の宇喜多秀家を総帥に担ぎ挙げて、徳川家に対抗しようといぅ大坂方の動きが始まった。

危険を察知した幕府は、翌1606年(慶長11年)宇喜多秀家を八丈島へ流罪とした。秀家はその後生活が困窮し、妻豪姫の実家前田家からは2年に一度白米70俵、金子35両が届けられ、それは豪姫の遺言で明治まで続いた。

秀家は現地で妻をめとり、子孫はようやく明治になって赦免された。

⑥ 1608年(慶長13年)西国将軍として徳川家康の信任厚い池田輝政は、姫路城を完成させた。輝政は外様大名とはいえ、譜代並みの待遇。

1609年(慶長14年)岡山城にいた池田利隆に長男新太郎(光政)が生まれた。母は徳川秀忠の養女で榊原康政の娘の鶴姫。1610年(慶長15年)輝政は駿府の家康に拝謁して三男忠雄に淡路6万3千石を賜わった。これも富子のおねだりの結果。

⑧ 忠継は1614年(慶長19年)初めて岡山に入国。

この年、大坂冬の陣がおこり、池田利隆勢も参戦、片桐且元の軍を見殺したと疑われ、家康から再三詰問され、重臣の必死の努力で改易をまぬがれた。これらにもすべて富子の意思が感じられる。

⑦ 1613年(慶長18年)正月池田輝政は姫路城で病死。長男利隆は10万石削られて姫路42万石の領主となる。この頃池田光政は徳川家康にお目見えし、短刀を拝領したところ、抜いて「これは名刀じゃ」と言ったとか。その後光政が警戒される理由となったかもしれない。

削られた10万石は播磨の宍粟郡、赤穂郡、佐用郡でしたが、次男忠継に与えられ、岡山とあわせて38万石となった。

富子が駿府の家康に運動した結果。

家康は富子の讒言によって利隆の国政執行に難癖をつけて詰問使を出し、利隆の重臣の若原右京と中村主殿が改易されるという事件さえ起こった。

⑨ 1615年(元和元年)2月、富子は先妻の子利隆が輝政の領地を相続したのが気に入らず、岡山城を訪ねた利隆を毒殺しようと、毒饅頭を用意した。

この時給仕の女が利隆に危険を知らせようと、手の平に「どく」の文字を書いて知らせたので、律儀な利隆は申し分け程度に口をつけて全部を食べなかった。

これを見た17歳の岡山城主忠継は、母富子の陰謀を見抜き、自分がその利隆の食べ残した毒饅頭を食べてしまった。事の意外な展開に驚いた富子は自らも毒饅頭を食べたので、富子は即日亡くなり、忠継もしばらく後に亡くなった。

これを俗に「毒饅頭事件」と呼ぶが、真実かどうかはわからない。

⑩　忠継死後、岡山城には弟の忠雄が淡路から入った。

忠雄は備前28万石と母富子の化粧料の備中4郡を合わせて領したので、ここに岡山藩31万5200石が確定。なお富子の子であった輝政の

4男輝澄には宍粟郡で3万5千石、

5男政綱には赤穂郡で同じく3万5千石、

6男輝興には佐用郡で2万5千石が与えられた。

これも急死した富子への家康の配慮。

⑪ 1615年(元和元年)大坂夏の陣では池田利隆勢も活躍、家康の疑いの目は厳しく、利隆は細心の注意を払って行動した。この戦に、宇喜多秀家のいとこの坂崎出羽守も参戦。秀頼助命嘆願のため大坂城から出てきた家康の孫千姫は、たまたま坂崎出羽守の陣中にきたので、出羽守は千姫を家康・秀忠の陣に案内した。講談では、家康が「千姫を助けた者には千姫を与えよう」と言ったので、坂崎出羽守が火に飛び込んで助けたとなっているが、これは違うよう。やがて大坂城は落ち、千姫は悲しみに打ちひしがれていたので、出羽守は千姫の仲人を買って出て、公家の九条家との縁談をまとめ、秀忠や千姫も承認した。ところが千姫は江戸城拡張工事を見学中に本多忠刻(伊勢桑名城主の子)に一目ぼれ、九条家との縁談を破談にしたので、面子を潰された坂崎出羽守は婚礼の行列を襲撃しようとして発覚し、津和野4万石を没収され、切腹させられたというわけ。

⑫ 1616年(元和2年)6月、池田利隆が京都の京極高広の屋敷で病死。嫡子光政は一旦その相続を許されたが、翌年6月幕府は光政が9歳と幼少のため、交通の要地である播磨42万石の支配できずとのことで、32万石に減封の上、鳥取に転封。

しかもその後の姫路に、千姫の夫本多忠刻の父・本多忠政を配置。幕府の徹底的血縁主義の中で池田家も翻弄されていた。

⑬ 1623年(元和9年)鳥取の新太郎は元服し、池田光政と名乗る。この年3代将軍家光が誕生し、幕藩体制はますます確固たるものに。光政の名は家光から一字賜わる。

1628年(寛永5年)には光政は姫路城主本多忠刻の妻になっていた千姫の長女勝子と結婚。つまり大御所秀忠の孫と結婚した。鳥取の池田家も将軍と縁続きになった事で、ようやく幕府からのいじめにあわなくなったことだろう。

なお翌年には家光の乳母が春日局の名を賜わった。

⑭ 1630年(寛永7年)7月21日、岡山城下で池田忠雄の嫡子光仲誕生を祝って盛大な盆踊りが挙行された。

その日、忠雄の家臣の河合又五郎が、忠雄の寵愛の厚かった渡辺源太夫を岡山城下（今の中銀本店あたり）で斬って逃走するという事件が起こった。

源太夫は美少年で言い寄る青年も多く、河合又五郎も言い寄ってはねつけられたのを恨んで犯行に及んだ。

又五郎は岡山城下森下に潜伏したあと、江戸の旗本安藤治右衛門のもとに匿われた。

これが江戸時代三大仇討ち事件の一つの幕開けです。

⑮　参勤交替で上京した忠雄は翌1631年(寛永8年)又五郎の行方を知り、懇意にする旗本を通して又五郎の引き渡しを要求。

しかし又五郎の叔父河合半左衛門はもともと殺人を犯して忠雄の行列に逃げ込んだのを忠雄が匿ったといういきさつがあったので、安藤は半左衛門と交換で又五郎を返すといってきた。そこで池田家では半左衛門を引き渡したところ、安藤は前言を翻して又五郎を返さなかった。使者に立った忠雄の家臣二人は藩邸にも帰れず切腹。

怒った忠雄は一戦に及ばんとしたため、幕府は安藤ら旗本を寺入りさせて事態の収拾を図った、旗本連合の意気は盛ん。

忠雄には妹婿の伊達忠宗や妻の父の阿波の蜂須賀、鳥取の池田光政等池田一統の外様大名連合がつき、旗本連合との大規模な対立となった。

この事件は幕藩体制がようやく安定期に入ろうとするこの時期、わずかの差で大名になれなかった多くの旗本のうっぷんが、家康の孫とはいえ外様大名の池田忠雄に向けて発散されたものだった。それだけに根は深く、幕府も困惑した。

⑯ １６３２年(寛永9年)春、幕府は忠雄が家康の外孫であるだけに簡単に処罰するわけにもいかず、対策に苦慮していた矢先、忠雄が病死。一説によれば幕府が御典医を送って毒殺させたとも言われているが、戦後忠雄の墓地が新京橋建設のため改葬された時、調査結果では毒殺ではなかった。

忠雄は臨終の末期に「いかなる供養よりも又五郎の首をわが墓前に供えよ」と言った。勝ち気な忠雄の性格から考えて、幕府による毒殺はあり得るシナリオ。忠雄の死は4月2日、31歳。

この年の4月15日いわゆる宇都宮釣天井事件がおこる等、幕府を巡っても陰謀が絶えなかった時期。

⑰ 幕府は忠雄の嫡子光仲が3歳と幼少であることを理由に、鳥取の池田光政と領地を交換させた。

実質的に幕府を騒がせた備前池田家に対する処罰。

光政は父利隆が備前監国時代に岡山に生まれ、岡山に親しみがあっただけに、大層喜んだ。

事件の処理としては、喧嘩相手の処罰も行なわれ、河合又五郎は江戸所払いとなった。

忠雄の弟輝澄、輝興らが再度幕府に抗議したが聞き入れられず。

そこで仇討ちの場合の名義人となるべき渡辺源太夫の兄渡辺数馬は仇討ちのため浪人し、鳥取に転封になった光仲についてゆかなかった。

⑱ １６３４年(寛永11年)10月6日、渡辺数馬は姉婿の荒木又右衛門らの助太刀で、江戸に向かう河合又五郎一行を伊賀上野の鍵屋の辻で襲撃し、仇討ちを成し遂げた。

この仇討ちは三大仇討ち事件の一つとして有名。仇討ち後、数馬と又右衛門は鳥取藩に迎えられたが、又右衛門は鳥取到着後わずか18日にして亡くなった。

この年、加賀前田家にいた豪姫も亡くなった。

なお幕府は翌１６３５年(寛永12年)の武家諸法度の改正の第12条でこの一連の事件を教訓とした条文を追加。

すなわち「武士が不都合あって浪人した場合、他藩に奉公しようとしても、旧主が意義を申し立てれば奉公できない」とした。まさに幕府の御政道をゆるがす大事件だった。

⑲ 岡山に国替えとなった池田光政は、江戸時代初期の名君として有名になり、岡山池田藩は幕末まで続く。児島湾の干拓は代を追って進行し、現在の後楽園や閑谷学校が築かれる。また鳥取池田藩も平和に幕末まで存続。

八丈島の宇喜多秀家は、すべてを見届けるかのように、1655年(明歴元年)11月20日に亡くなった。

主要参考文献

「戦国の宇喜多一族」高山友禅著　山陽新聞社

「巣雄の妻」宇喜多直家夫人お福　森本 繁著　山陽新聞社

「傷ついた備前鳥」備前宰相秀家の母　森本 繁著　山陽新聞社

「揚羽蝶の飛翔」森本 繁著　山陽新聞社

「備前藩史談」荒木 臣著　日本文教出版

「岡山県の歴史」谷口澄夫著山川出版社

「岡山城物語」上・下　市川俊介著　岡山リビング新聞社

「岡山城と城下町」(岡山文庫) 巌津政右衛門著　日本文教出版

「岡山の女性」(岡山文庫) 吉岡三平著　日本文教出版

「岡山県百科辞典」上・下　山陽新聞社

「日本の歴史⑫江戸開幕」藤井譲治著集英社

「剣酢しょう草の乱舞」 森本 繁著　山陽新聞社